

京都・長岡京跡(2)



(京都西南部)

今回の発掘調査で検出した長岡京期の主要遺構は、一条第二小路両側溝・南一条大路両側溝・南一条三坊北辺及び南辺溝・二条三坊十六町北辺柵・掘立柱建物跡一棟などである。南一条大路は、路面幅二

- 1 所在地 京都市南区久世東土川町
 - 2 調査期間 一九八五年(昭60)九月～一九八六年三月
 - 3 発掘機関 勸京都市埋蔵文化財研究所
 - 4 調査担当者 久世康博・上村和直
 - 5 遺跡の種類 都城跡
 - 6 遺跡の年代 八世紀末
 - 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- 本調査は、西羽東師川改修工事にもなる第六次調査である。調査対象地は、長岡京左京南一条三坊十三町・二条三坊十六町に位置する。

三・三m(溝心々で約二四・八m)である。両側溝は幅約一・五m、深さ〇・三〇・七mで、断面は逆台形を呈し、底部は平坦である。また、北側溝と十三町坊内溝との間(溝心々で約四・九m)の築地下に暗渠が造られている。

木簡は南一条大路北側溝から一点出土した。溝の埋土は大きく三層に分かれ、層序から短期間の堆積と考えられる。伴出した遺物は土師器・須恵器・人面墨書土器・人形・ヘラ状木製品などである。溝が埋めたてられた時期は土師器の形態・調整手法等から考え、八世紀末と推定できる。

8 木簡の积文・内容

(1) □□□我林延□□□

(191)×17×9 081

墨痕は明瞭に残存している。上・下端が欠損し、左側面が墨書した後、削られているため、文字は中央部のものを除き、判読出来ない。积読にあつては、奈良国立文化財研究所の鬼頭清明・綾村宏両氏の御教示を得た。

(上村和直)